

## 応援メッセージ

2022年1月12日  
金沢医科大学 名誉教授  
伊達孝保

大隅良典 様

今日の新聞にでていた記事を読みました。  
とても励まされます。

私は、まだ学内の個人から提出された研究費申請調書の助言を続けていますが、私の大学でも、素晴らしい研究をしている人も少なくなく「科学」への刺激を受けています。とともに、最近「すぐ役立つ学科」が流行語大賞をとりそうで心配していたところです。

私の大学の看護学科では、政府の答申を受け在宅医療を目標にした看護プログラムが昨年度から始まりました。それに伴う実習や法規の科目が増え、逆に看護の基本ともなる生命科学の教科が縮小。今、生化学の講義をしていますが、生化は独立した教科ではなく、生物、生化、解剖、生理の4分野を合わせ1教科になってしまいました。遺伝学などの科目はありません。看護師は体を使った仕事ばかりで、大病院では、4年勤めれば退職するのが多数派。白衣の天使は今やどこかの神様が作ったジョーク。

国内の医学部も少し変わった視点から変革が進んでいます。

アメリカの医師国家試験の受験資格に合わせ、多くの大学で臨床実習を1年間から2年間に延長。そのために、教養を含め、基礎・臨床教科が削減。研修医制度が定着して医学部から研究者になるものは激減していましたが、これで医学部から研究者への道は完全に閉ざされたのも同然。

金沢大学では新設されるのは「すぐに役立つ」学科ばかり。

本年度から金沢大学には「観光デザイン科」が新設され、融合領域のイノベーションをと宣伝していますが、既に観光コースもあり、将来何の役にたつやら。

工学でも自動車の自動運転の学科が数年前に作られたり、あまりに目的が直接で、先を見据えた目標を見失っている感じがします。

これでは高校生は大学に夢を託せないでしょうね。

少し長くなりましたが、体には気を付け、僕らに代わってこれからも科学に対する批判と提言を行って下さい。